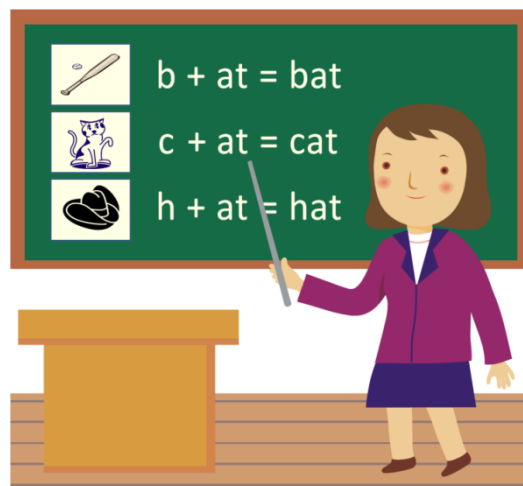


Tips ! for 英語カレンダー

**RISE English Course 英語カレンダーを  
効果的にご利用いただくために**



2013年4月

認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所

小野村 哲

## ごあいさつ

このたびは「RISE English Course 英語カレンダー」をご利用いただきありがとうございます。日頃、私達は、不登校や学習につまずきがちな子ども達の支援に取り組んでおります。このカレンダーには、過去 30 年間の実践と研究の成果をもとに、つまずきを防ぎ得意を伸ばすための工夫を盛り込みました。

また、この手引きでは、子ども達にお話ししていただきたい Tips! (学びのヒント・秘けつ) を紹介してまいります。カレンダーとともにお役に立てていただけたなら幸いです。

2013 年 4 月

認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所  
理事長 小野村 哲

---

## このカレンダーの特長

### ○ 苦手を防ぎ、得意を伸ばす！ポイントは「音の足し算」！

日本人が英語を苦手としがちな理由の 1 つとしてあげられるのが、「音に対する気づき」の不足、そして「音の足し算」への不慣れです。

毎日 1 単語ずつの練習で、‘in ⇔ sin ⇔ sing ⇔ sting ⇔ string’などの「音の足し算・引き算」に慣れることで、苦手を防ぎ、得意を伸ばします。

### ○ すでにもっている知識を生かし、自ら学ぶ力を養う

#### 初級編の目標は 1 年間で ‘1,000~2,000’ 単語！

「デパート」のような英語としてはそのまま使うことができない語を除いても、小学高学年になれば、多い子で 1,000 語くらいのカタカナ語を知っているとされます。

このカレンダーでは、子ども達にとって聞き覚え、見覚えのある語を中心に取り上げ、言葉に対する関心を高めるとともに、毎日の生活の中で、自ら学び取る力を養います。

### ○ 独自の工夫が盛り込まれた練習シート

‘b/d/p/q’や‘h/n’など、形の似た文字の区別でつまずく子どもも少なくありません。区別はできているようでも、ここで労力を費やし、英語を苦手とするようになる子もいます。準拠の練習シートには、このようなつまずきを回避、軽減するための工夫が凝らされています。

## ○ 効果的な練習方法 ○

### 1 読みを考える：自ら学び取る力を養うために

《 家庭で 》

たとえば洗面台の近くにカレンダーを貼るなどして、毎朝、歯をみがくときに「今日の単語」を見て、単語の読みを自分で考えるようにします。

《 学校で 》

たとえば朝の会の際に「今日の単語」を板書し、単語の読みを自分で考えるようにします。月曜の朝には、「日曜日の単語は〇〇でした。では、今日の単語は何と読むでしょう」などします。

### 2 読みを確認する

《 家庭で・学校で 》

夕食時や帰りの会などに、「今日の単語」の読みを確認します。たとえば‘cut’が読めないときは、「昨日の‘nut’の‘n’を‘c:ク’に替えたら…」とヒントを出します。

### 3 Tips！（学びのヒント・秘けつ）を活用する

《 家庭で・学校で 》

‘Tips！（学びのヒント・秘けつ）’を、夕食時や「朝の会」「帰りの会」などの話題の1つとして取り上げ、言葉や音に対する関心・意欲を高めましょう。

### 4 単語を書いてみる：読む力をつけるために

《 家庭・学校で 》

たとえば夕食の後や帰りの会で、‘cut：ク+ア+トゥ’のように一音一音を確認しながら、テーブルや机の上に指で一度だけゆっくりと書くようにします。

### 5 練習シートに書いてみる：読む力をつけるために

《 家庭・学校で 》

曜日を定めて、前の週に出てきた単語の読みを確認します。その上で、練習シートを使って書く練習をします。

何度も書かせる必要はありません。書くことに苦手意識のある子であれば、一度でも十分です。そのかわり、ここでも「ク+ア+トゥ」と一音一音を確認しながら、ゆっくりと書かせるようにします。

目的は「音に対する気づき」を促し「音の足し算」に慣れることで、「読む力」を伸ばすことです。これが、「書くこと」はもちろん、「聞くこと・話すこと」の基礎ともなります。

## 6 その他の練習方法

《 カルタにして楽しむ 》

カレンダーを切って1単語ごとのカードにし、カルタゲームを楽しむなども効果的な練習方法です。

《 発展練習 》

たとえば‘set/get … west’を取り上げた週には、「‘et’の前に‘w’をつけたら…」または「‘west’から‘s’を取ったら何と読むでしょう」と問いかけます。

このとき「ウェット・ティッシュやウェット・スーツの‘wet’だね」などとし、毎日の生活と結びつけ、英語に対する関心を高めるようにします。

### ○ 練習の際に気をつけたいこと ○

#### 1 毎日の生活の中で、楽しみながら、学べるようにする

このカレンダーの特長は、「音の足し算・引き算」を通じて英語への関心を高め、自ら学び取る力を養うことです。「今度ウェット・ティッシュを使うことがあったら、そこに英語でも書かれているかどうかをたしかめてみよう」などとしてみましょう。

生活の中で目や耳にする英語に関心をもつようになれば、1日1単語ずつでも1年間で1,000語から2,000語以上の単語を身につけることもできます。

#### 2 まずは英語に親しむことから始める

「音の足し算・引き算」に慣れ、「読む力」を伸ばすためには、単語を書いてみることをお勧めします。しかし毎日10回ずつ書かせたり、テストなどをするのはあまりおすすめしません。

このカレンダーでは、アルファベットや英語の音に親しむことを目的に、楽しみながら練習できるように心がけましょう。

#### 3 つまづきに配慮し、試行錯誤の権利を認める

できる人からすれば何でもないこと、たとえば‘b/d/p/q’など形が似た文字の区別に困難を示す子もいます。算数では100点をとっていても、英語検定では2級程度の力を身につけるようになってても‘b/d’を混同したりします。

発音も、「上手に、正確に」を強調しすぎると、英語嫌いを生みだす元になります。学びの過程においては、間違えたり迷ったりする試行錯誤こそが大切だとも言えます。

「リヴォルヴ学校教育研究所」のWebページでは、「読み書き困難の疑似体験」を公開しています。早くから力を発揮する子もいれば、ゆっくりと力を発揮する子もいます。子ども達のつまづきへの理解を深め、その子のペースで学びを深められるようにしましょう。

## Tips ! (学びのヒント・秘けつ) : 簡約版

ここでは「英語カレンダー」の進行に合わせて、英語への関心を高め、英単語を効果的に身につけるための「Tips ! (ヒント / 秘けつ)」を紹介します。夕食時や授業の中などで、話題の1つとしてお話ししてみてください。

もう少し詳しく知りたいという方には、ディテイル版の購入をお勧めします。

### 第1週: 'lamp' はなぜ 'L' なのか

第1週は 'a' を含む語の練習です。'a' の音は、日本語の「ア」とはかなり違ってきます。'cut' の「ア」ではなく、'cat' の 'a' であることお話ししてください。口を横に開くようにして、「ェア」のように発音します。

さて、'lamp' はなぜ 'L' で書き始めるかということですが、'L' の音は日本語でいうと「ランラン」というときの「ラ」に近く「軽く明るい」感じがしませんか。それに比べて 'R' は「重く暗い」感じがします。

「位が高い」というときの「ラ」と「暗い」というときの「ラ」では、舌の位置が違いますか。「暗〜い」と暗さを強調すると、舌の位置はより低くなると思います。ということで、「光」に関する単語は 'light : 光' など 'L' を用いることが多くなります。ちなみに、'fly : 飛ぶ' は 'L'、'fry : 油でいためる、揚げる' は 'R'、'fright : 恐怖' や 'cry : 泣く' は 'R' でないとピンときません。

これから少しずつお話ししていきますが、「音から受ける印象」と意味の間には深い関係があります。このような「気づき」も、英語を身につける上でとても大切な役割を果たします。

【参考】 bat : バット   fan : うちわ   cap : 帽子   camp : キャンプ   stamp : 切手

\* 各週ごとに【参考】として、カレンダーに載せた以外につづり字に共通性がある単語を紹介していきます。無理のない範囲でこれらの単語もいっしょに練習してみてください。

## 第2週：‘club’の‘cl-’はクル！クル！ク○ラップ

第2週は‘u’を含む語の練習です。ここで取り上げた‘club’は、スポーツクラブなどというときの「クラブ」以外に、「こん棒・ゴルフクラブ」などを意味します。「英単語は1つでいろいろな意味を表す。だから…」とも言いたくなるところですが、‘club’の‘cl-’は元々「クルッと丸める / かたまりにする / 閉じる」ことを意味していたのです。

「木のこぶ」から「こん棒 → ゴルフクラブ」、「人のかたまり」から「クラブ・チーム」と考えれば納得がいきますね。「かたまりにする → 閉じる」は‘close’、手を閉じてポンと鳴らせば「clap：拍手をする」、空で水蒸気が固まれば「cloud：雲」です。

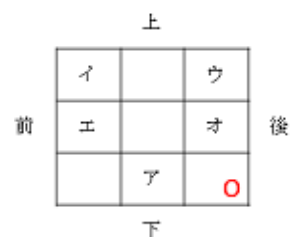
私は子ども達に、「‘クル！クル！ク○ラップ’というCMがあるでしょ。そんなイメージかな」と教えています。「山、川」などの漢字は絵が元となっている対して、「英単語は音が元になっていることが多い」とお話しいただいてもいいかと思います。

【参考】 up：上へ    tub：おけ    bug：昆虫    hug：抱きしめる    shut：閉じる

## 第3週：‘3×3 四角形’で覚える英語の発音

今回は、意外と難しい‘o’の発音を確認しましょう。ポイントは、耳だけでなく、目で日本語との違いを確認することです。

まず、右の図で、日本語の母音を発音するときの舌先の位置を確認してみてください。「イ・エ・ア」と発音すると舌先が口の中で上から下に、「イ・ウ」と発音すると前から後に移動しますね。



そこでまず‘a/u’の音ですが、‘a’は舌先の位置を「エ」と「ア」の中間あたりにして‘cat’の‘a’、‘u’は日本語の「ア」とほぼ同じ（イギリス発音）かやや高め（アメリカ発音）にして‘cut’の‘u’とします。

そして‘o’ですが、舌の位置は「オ」よりもぐっと低くなることを確認しましょう。あごを下に引いて舌先を「ア」の位置まで下げ、さらに「ア」よりも後ろ寄りにします。‘on’は「オン」よりも「アン」に近く発音してみてください。

発音は実際に音を聞いて覚えるのが一番ですが、それだけではなかなか難しいのも事実です。私はいつも、筑波大学名誉教授の 島岡 丘先生 が考案された「3×3 四角形」を用いて、子ども達自身に考えて発音させるようにしています。

【参考】 top：頂上    stop：止まる    spot：地点    pot：つぼ    drop：しずく、落とす

## 第4週：1単語×365日を1,000語以上にするために

第4週は‘i’を含む語の練習です。‘i’は日本語の「イ」と「エ」の間のような音です。「エ」というときの口の形で「イ」というようなつもりで発音します。まず日本語（カタカナ語発音）で「ピン」、次に英語で‘pin’そして‘pen’と順番に発音してみてください。

さて、今週は‘win/sing’などの語を取り上げています。この2語を組み合わせると、‘swing’というこれほどここで聞き覚えのある単語ができあがります。‘in ⇒ sin ⇒ sing ⇒ sting ⇒ string ⇒ spring’と書いてみせ、「なんて読むでしょう？」と子ども達自身に考えさせるのも効果的です。

そして、「ほんの少しの間に、ずいぶんたくさんの単語が読めるようになったね」とほめてあげてください。練習によって何ができるようになったかを確認することは、意欲を引き出すためにとても大切なことです。

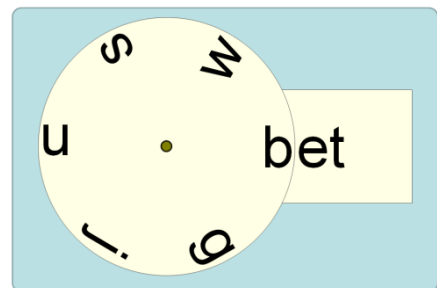
ここで単語の意味まで覚えさせようなどと、欲張りすぎないようにも気をつけましょう。

「sin：罪」などは、「音の足し算」に慣れることを目的の取り上げた単語ですから、あとでこれらを見たときに「見覚えがあるような…」となればそれで十分です。

【参考】 in：…の中に    sing：歌う    sting：針で刺す    string：糸    spring：春

## 第5週：掲示物にも一工夫

今回で「短母音として発音される、1つの母音字を含む語」の練習が終わりますが、ここはもっとも基本的で重要なところです。次のような掲示物を作って、どこかに貼っておくなどして、繰り返し練習できるようにするのも効果的です。真ん中をピンで留めるなどして、円の部分をくるくる回し、音の足し算ができるようにします。



なお、‘net’と‘ten’のように、文字の並び順を入れ替えて別の単語にすること、また、そうしてできた単語を「アナグラム」といいます。子ども達には

「2つの単語を見て、何か気づかない？」と声をかけてみてください。ここでの気づきは、「音の足し算」に慣れ、‘who/how’ ‘tired/tried’ や ‘aboard/abroad’ などの混同を防ぐことにもつながります。

【参考】 wet：ぬれた    went：‘go’の過去形    west：西    best：最上の    vest：チョッキ

## 第6週：‘英語なぞなぞ’で実力アップ

今週は‘英語なぞなぞ’を出題してみてください。

◎ 第1問 並べかえると、黄色くなって、すっぱくなってしまふ果物はなんでしょう。

実はこれ、「音に対する気づき」を促し、「音の足し算」に慣れるためには、とても大切な問題です。黄色くて、すっぱい果物といえば‘lemon’ですが、これを並べかえると…。

他に、

◎ 第2問 並べかえると、急にえらくなってしまふ動物は何でしょう。

◎ 第3問 並べかえると、安くなってしまふ果物は何でしょう。

などもあります。第3問は少しレベルが高くなりますが、「英語で‘安い’は‘cheap’です」とヒントを与えるなどして、子ども達に出題してみてください。

【正解】 第1問‘melon ⇔ lemon’ 第2問‘dog ⇔ god’ 第3問‘peach ⇔ cheap’

【参考】 baton : バトン camel : ラクダ caramel : キャラメル million : 百万 cotton : わた

## 第7週：アクセントは‘強く・高く・長く’

先週からは、2音節に分けられる単語を取り上げています。そこで今回は「アクセント」に注目しましょう。

‘comic : 漫画の’などの語の「どこを強く発音しますか」と尋ねると、カタカナ発音をもとに「ミ」の部分強く読むという子が多いかもしれません。しかし今週の単語はすべて第一音節にアクセントがあります。「-ic」で終わる語は、‘clas-sic / dra-ma-tic’などそのすぐ前にアクセントがくるのがほとんどだとお話ししておけば、高校・大学入試でも役に立つはずですよ。

しかしそれ以上に大切なのは、「音に対する気づき」を促すことです。「強く」といわれてもピンとこないという子も少なくありませんが、そんなときには「高く」または「長く発音する」と説明しましょう。まずは、「長く」にスポットを当ててみます。紙面でもイメージしやすいようにあえてカタカナで示すと、もちろん「ドーラマティック」ではなく、「ドラーマティック」「ドラマティーク」でもなく、「ドラマーティック」という感じです。

【参考】 panic : パニック picnic : ピクニック clinic : 診療所 public : 公共の classic : 古典



## 第8週：アクセントを体で覚える

先週に続いて、「アクセント」に注目します。今回は特に「高く」ということにスポットを当て、カタカナ語としての発音との違いを意識しながら練習できるようにしましょう。

私の経験では、各クラスに少なくとも1人か2人くらいは、音の高低がよくわからないという子がいます。だからといって決してできない子とは限りませんし、とてもよくできる子だからこそ、その困難を見過ごしてしまいがちだったりします。

「正しい発音」を強ければ英語嫌いを生む元にもなりかねませんが、アクセントは‘r/l’などの区別以上に重要だといってもいいと思います。「最初から上手にできなくたっていい。少しずつ練習しましょう」とした上で、体に英語のリズムをしみ込ませていきましょう。

子ども達と練習するときには実際に手を上下させたり、アクセントがある部分で起立するなどしてみてください。「カタカナ語では、ラケット(●●●)だけど、英語では racket (●●)だよ」と発音しながら、それぞれ「ケ」「ra」の部分で立ち上がるなどします。

【参考】 jacket : ジャケット packet : 小包 magnet : 磁石 planet : 惑星 trumpet : トランペット

## 第9週：目で見て覚える

単語は耳で覚えるのが基本。しかし、よく見て覚えることも大切です。まとまった英文を聞いたり読んだりする場合でも、耳(音)からの情報と目からの情報、その他場面からの情報などをバランスよく使えるようにすることが重要です。

‘rabbit’を‘\*rabit’としてしまったとき「何か足りない」と気づけるようにするには、よく見ること、そしてよく見るためには、一度ゆっくりと書いてみることです。子ども達に限らず、私達は見ているつもりでも見ていないものです。

書くことに苦手意識のある子であれば、一度でも十分です。現段階での目的はすべての単語を暗記して、書けるようにすることではありません。よく見る習慣、文字の大きさや間隔にも注意を払う習慣を身につけるために、準拠の練習シートを利用してみてください。

‘rabbit’を「ラブ、ラブ…」として読めない子には、「ウサギってカタカナ語で何というの」と声をかけてみましょう。「‘y’と‘i’は親戚」と教えるのも方法です。

【参考】 happy : 幸せな daddy : お父さん mammy : お母さん candy : キャンディー jelly : ゼリー

## 第 10 週 : 礼儀正しい母音達

ここからしばらくは「礼儀正しい母音」を含む語をとりあげます。‘ee’は前の‘e’だけを文字の名前のままに「イー」と発音します。後ろの‘e’は「お先にどうぞ」とばかりに黙ってしまう(発音しない)ので、このような母音字の組み合わせを「礼儀正しい母音」と呼びます。

これをルールとしてまとめれば、「母音字が2つ並んだときは前の母音字を名前読みにし、後ろの母音字は発音しない」となりますが、‘oo’は「ウー」などと発音されるように、このルールには例外も多くあります。ここではルールについては説明せずに、「‘ee’を2文字1パックにして、‘イー」と読む単語の練習をしよう」とぐらいに押さえておくのも方法です。

ちなみに‘sheep : 羊」などの‘ee’は、日本語の「イー」とほぼ同じか、少しくちびるを横に開くようにして発音します。すでに練習した‘ship : 船」などの‘i’の音とは、「長さ」だけでなく音そのものから異なることも、お話ししてみてください。

【参考】 eel : うなぎ heel : かかと feel : 感じる feet : ‘foot’ の複数形 meet : 会う

## 第 11 週 : 考えて読む力を育てる

‘ea’も「礼儀正しい母音」の1つです。後ろの‘a’を発音せず前の‘e’だけを「イー」と名前読みにするのが基本ですが、‘ea’は「エ」と発音されることも少なくありません。

ここはそれを逆手にとって、クイズを楽しんでみましょう。たとえば‘heat : 熱’と‘head : 頭」の2語を示して、「‘熱’と‘頭’、‘ea’を‘エ’と読むのはどっちだと思う」とたずねます。必要があれば「‘head : 頭’は、‘ヒードゥ’それとも‘ヘッドゥ’？」と加えます。

目的は、例外的な読み方をする語への対応力を高めること、言い換えれば「自分で考えて読む習慣」をつけることです。ルールをルールとして教え込むような指導法は、子ども達を受け身にし、かえって混乱させる可能性すらあります。ここではカタカナ語の知識を生かし、単語の意味から読み方を推測することになりますが、このような練習は長文読解でも、場面や文脈から未習語の意味を類推して読む力を育てます。

【 ea : イー 】 sea : 海    pea : エンドウ豆    seat : 座席    heat : 熱    meat : 肉  
peach : 桃    beach : 浜辺    dream : 夢    clean : 清潔な    leader : 指導者  
【 ea : エ 】 head : 頭    health : 健康    heavy : 重い    heaven : 天国    bread : パン  
breakfast : 朝食    ready : 準備のできた    weapon : 武器    weather : 天気

## 第12週：二重母音と「暗い‘l’」の発音

今週は「礼儀正しい母音：ai」を含む語の練習です。後ろの‘i’を発音せずに前の‘a’だけを「エイ」と名前読みにするのが基本です。

日本人は‘A’を「エー」のように発音しがちです。「エー」ではなく「エイ」であることを確認しましょう。「i」の音は「エ」に近く、軽く添えるように発音します。さらに「暗い‘l’」と呼ばれる‘mail：郵便’‘sail：航海」などの‘l’は、「ウ」のように発音されます。

以上の2点に注意するだけでもずいぶん英語らしい発音になります。「メール」「セール」ではなく「メイウ」「セィウ」のように。

「正しい発音」を強ければ、英語嫌いを生む元にもなります。しかし「かっこよく発音できる」ということは、英語を身につける上で非常に強い動機づけともなり得ます。「最初から正しい発音」ではなく、「少しずつそれらしい発音」を身につけられるようにしたいものです。

【参考】 nail：つめ    rail：レール    brain：脳、知力    main：主な    plain：明白な、簡素な

## 第13週：‘b / d / p / q’・‘l / r’の混同を防ぐ

今週は‘ay’を含む語の練習です。‘ay’は‘ai’と同じように、後ろの‘y’を発音せずに前の‘a’だけを「エイ」と名前読みにするのが基本です。第9週にもお話したように、「‘y’は‘i’の親戚」と教えるのも方法です。英語では‘i’で終わる単語はほとんどありません。単語の最後では‘y’が‘i’の代役を務めているからです。

なお、子ども達の中には‘b / d / p / q’を混同し、練習してもその区別がなかなかできるようにならない子もいます。これを改善するためには、1つとして書き順で区別させる方法があります。‘b’は縦棒から、‘d’は「‘c’の次は‘d’」と言いながら、まず‘c’を書いて縦棒を書くようにします。アルファベット文字の書き順は、ひらがなや漢字ほどに厳密ではありませんが、‘b / d / p / q’については、書き順を守らせるようにしましょう。

‘play：遊ぶ’と‘pray：祈る’を混同しないためには、‘l / r’を正しい位置に正しい大ききで書けるようにすることも大切です。音を聞いて区別できることが理想ですが、目からの記憶も大きな役割を果たします。準拠の練習シートを活用するなどし、「ここは2階建て (l) だった？ それとも1階建て (r) だった？」と声を書けるようにしてください。

【参考】 lay：横たえる    ray：光線    stay：滞在する    gray：灰色の    tray：お盆、さら